

農学知的支援ネットワーク (JISNAS) の新体制

農学知的支援ネットワーク (JISNAS: Japan Intellectual Support Network in Agricultural Sciences) は、農学分野における教育・研究・社会貢献等に係わる国際協力活動への参加の意図を有する大学間の連携及び大学と我が国の国際農業研究機関との連携を促進することを目的として、2009年11月30日に設立されました。農学領域の開発問題を実践的に解決する人づくり協力をリードする全国の拠点となることをビジョンとしている農学国際教育協力研究センター (ICCAE: International Cooperation Center for Agricultural Education) は、それより早い2008年にJISNAS設立を発起し、文部科学省や国際協力機構 (JICA) 等関係機関との協議を重ね、また参加希望大学や個人から前向きな合意を得て設立に至ったものです。

全国から選ばれた9名の運営委員 (田中耕司運営委員長) による合議のもとで活動を実施してきましたが、設立の経緯を踏まえ、また、設立当初はICCAEが文部科学省から支援を受けていたので、活動経費についてはICCAEが全面的にサポートしてきました。多くの活動も主にICCAEがリードしてきたところがあります。

設立から5年経過し、その間に活動の幅も国際共同研究推進、海外からの研修員受入へのコミット、大学院生のJOCV派遣、JICA/JISNASセミナー等のJICAとの協働、全国農学系学部長会議オブザーバー参加など相当広がりましたが、1年ほど前から会員相互が支え、参加する組織・活動に展開する必要が指摘され、2014年度に運営委員長のもとに将来企画委員会を設けて検討した結果、2015年4月から新たな運営体制とすることが2015年3月の総会で決まりました。

新たな運営体制と加盟組織 (案) を図1に示しました。団体会員の中から幹事組織を設け、幹事組織以外の団体会員をその他の加盟組織とする。これまでアドバイザー機関をお願いしてきたJICAと国際農林水産業研究センター (JIRCAS) に幹事組織に入っていただく。幹事組織は運営委員を出し経費負担を伴って活動をリードし、実際には運営委員会のもとに設ける分科会がそれぞれ中心となって活動を進め、分科会の責任者は運営委員が兼ねる。運営委員は幹事組織以外にも幹事組織からの推薦や会員意向等の調査を踏まえて選出されることができきる。事務局は当面ICCAEに置いて運営委員会の事務を補佐するという体制です。情報収集・広報及び組織管理は当面事務局が担当します。分科会はまだ確定していません。想定される分科会とその活動を図1、表1に示してあります。

この4月に退任された田中前運営委員長はその挨拶の中で、新しい皮袋は新しい酒でそそぐと述べています。JISNASは団体会員の入会が漸増し、また、国際協力や国際研究などで実際に海外で活躍している人たちの入会も増えてきています。大学の動きや大学を巡る情報を求め、また横のつながりを求めているのだと思います。文科省主導によって大学の国際化が加速されてきている中で、国際教育協力を通じた国内外の人材の育成や教育研究の実践は今後ますます増えてくるものと予想されます。JISNASは大学間の競争をおおるのではなく、お互いに知識や経験、情報を共有しながらともに国際化や国際協力を進めていく横のつながりを媒介する組織です。そのためにやれることがあります。新しい皮袋を満たす酒が芳醇となることを期待するところです。 (浅沼修一)

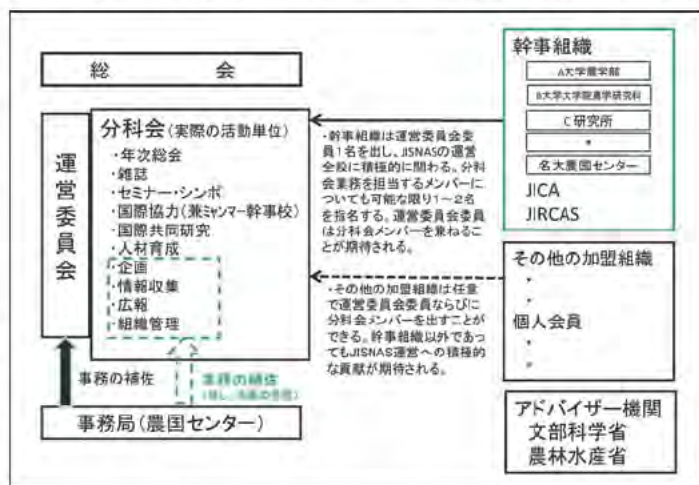


図1 JISNAS運営体制と加盟組織 (案)

・年次総会	原則、総会開催は幹事組織の持ち回り
・雑誌	農学国際協力編集委員会 (企画、査読、刊行) (刊行予算は農国センター)
・セミナー・シンポジウム	随時企画 (総会と同時開催も可) ex. JICA-JISNASフォーラム
・国際協力	ミャンマー農学高等教育支援の幹事校を担当 JICAとの様々な連携を担当
・国際共同研究	国際共同研究プログラムの情報収集と発信 ex. SATREPS
・人材育成	協力隊事務局との連携 大学独自の工夫による国内外の人材育成に係る情報収集と発信
・企画	JISNASとしてやるべき活動の企画や分科会業務の分担 関係機関との連携 ex. ECFA, ADCA, JIRCAS
・情報収集	JISNAS業務関連の国内外情報の収集
・広報	JISNAS活動や収集した情報の広報・案内
・組織管理	会員の入退会事務等

表1 分科会の主要業務 (案)